

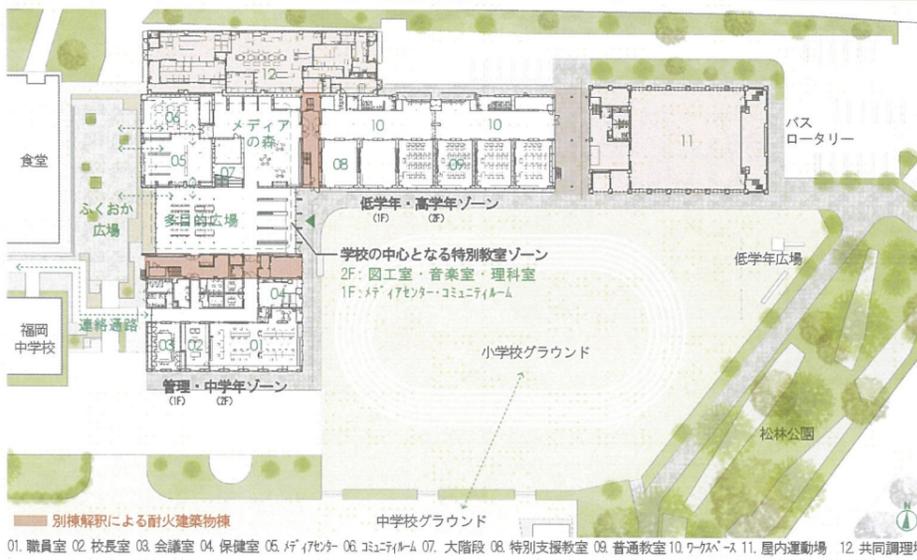
子どもたちの原風景となる学び舎



1. 一枚の大屋根が風景をつくる -360度自然につつまれた場所性を活かした配置-
 小学校は隣接する中学校との連携や松林公園の保存などに配慮してシンプルなL字型の配置とした。登校する子どもたちは市のシンボルである「二ツ森山」を背景に、大屋根の稜線に向かう。学校の中心となる部分にはメディアの森、特別教室などを配置しており、その中心に向かって緩やかに上がる大屋根が周辺の山並みに呼応した風景をつくっている。また、一枚の大屋根を実現するために、鉄骨造の耐火建築物部分と木造棟の間にエキスパンションを設けない一体の構造としている。

2. 中津川市の木材をふんだんに使う -1,124㎡の地域材を使った校舎-
 校舎はこの地域で製材される一般製材をふんだんに活用するために在来軸組工法を採用し、別棟解釈などを用いることで、燃え代設計に頼らない「その他建築物」として計画した。設計段階から森林組合など多くの協力を得て、事前に木材を調達することで、結果的に構造材として約980㎡の県産材を中心にその内6割に中津川市産材を活用している。製材から加工まで出来るだけ市内で行うことが可能な計画とすることで、地域経済にも寄与し、地域の誇りとなる木造校舎を実現している。

3. 建築に子どもたちが寄り添う -2,730mmでつくる子どもの居場所-
 一枚の大屋根の下に広がる内部空間はこの地域で伐採された象徴的な4対の丸太と、一般製材を中心とした2,730mmのモジュールで構成した。この地域で多く製材される120角材を用いた住宅スケールのような空間は子どもたちの学び・遊びを誘発する。製材で構成される下弦材(座屈補剛材)は構造的な座屈防止に寄与するとともに、ピクチャレールや照明をプレカット時から仕込むことで機能的なワークスペースなどを実現している。柱を囲んだり、寄りかかったり、小さなスケールで構成される「木」に子どもたちが寄り添い、建築と共に成長していくような空間を目指した。



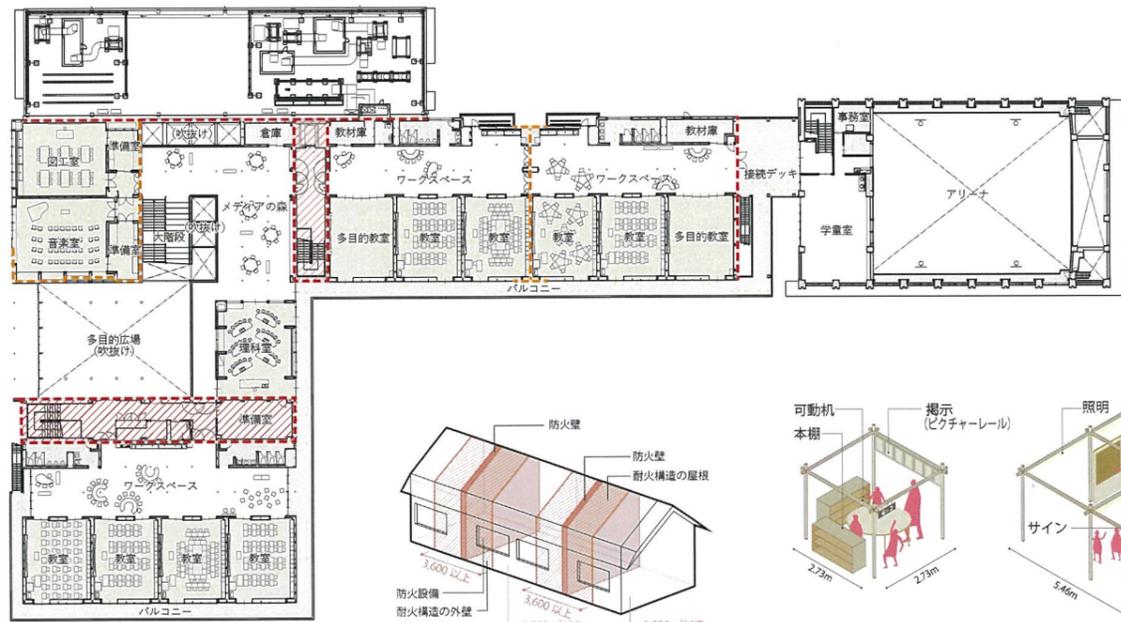
中津川市立新ふくおか小学校は4校の統合校として、隣接した中学校と共に地域再編の一角を担う小中一体校である。中津川市の「木」をふんだんに使うことをテーマに、「ふるさとを愛する子ども」を育む、記憶に残る学び豊かな木造校舎を目指した。

No.1107860-04 230721

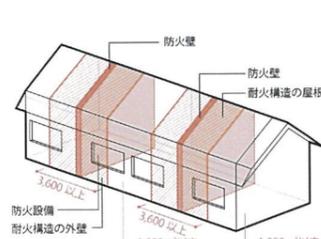
所在地 / 岐阜県中津川市
 建築主 / 中津川市
 用途 / 小学校
 規模 / 地上2階建て
 使用木材量 / 1,124㎡ (構造材約980㎡)
 構造 / W・S・RC造 (在来軸組工法)
 敷地面積 / 42,181㎡
 建築面積 / 4,162㎡
 延床面積 / 6,034㎡
 竣工 / 2023年7月

中津川市の一般製材(120角)で構成される架構

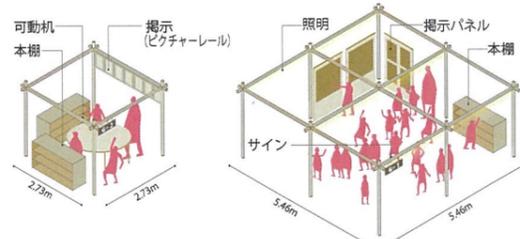




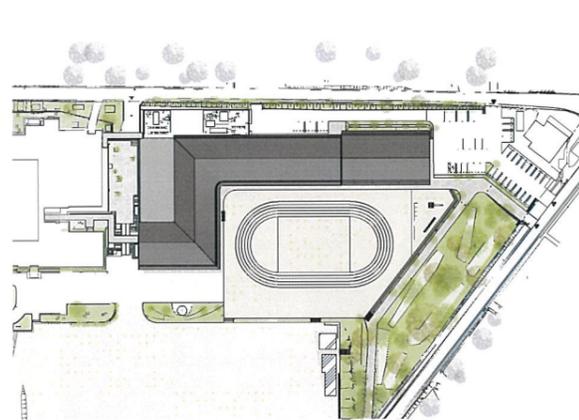
2階平面図 S=1:800



防火壁の考え方



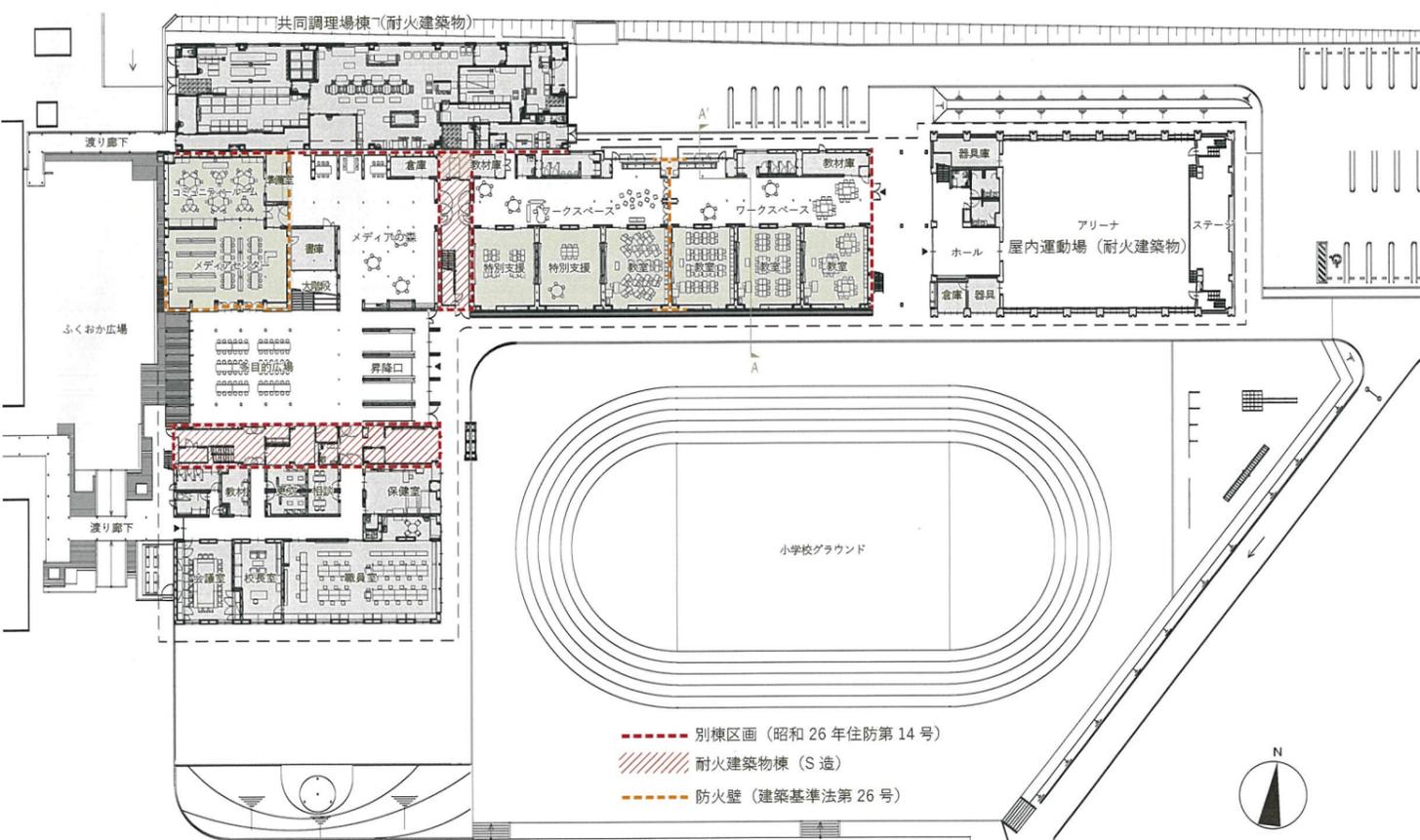
2,730 mmモジュールによる活動のイメージ



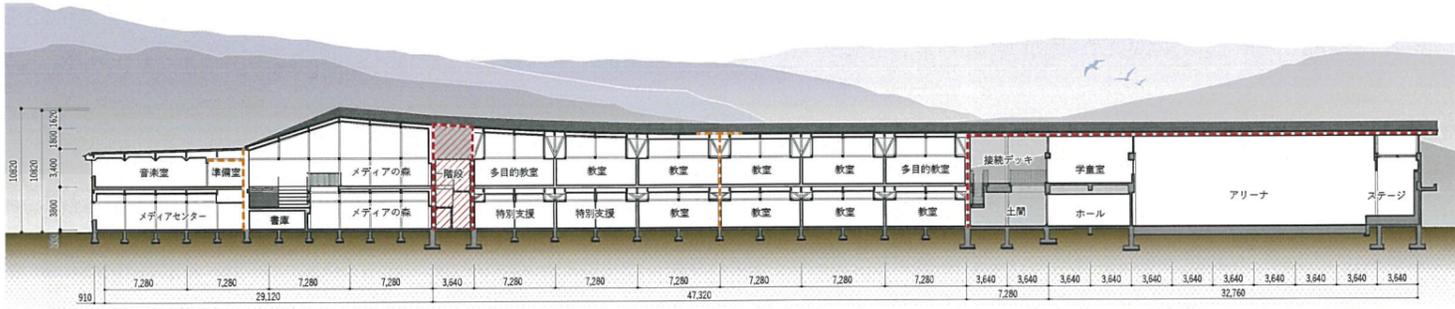
配置図 S=1:3000



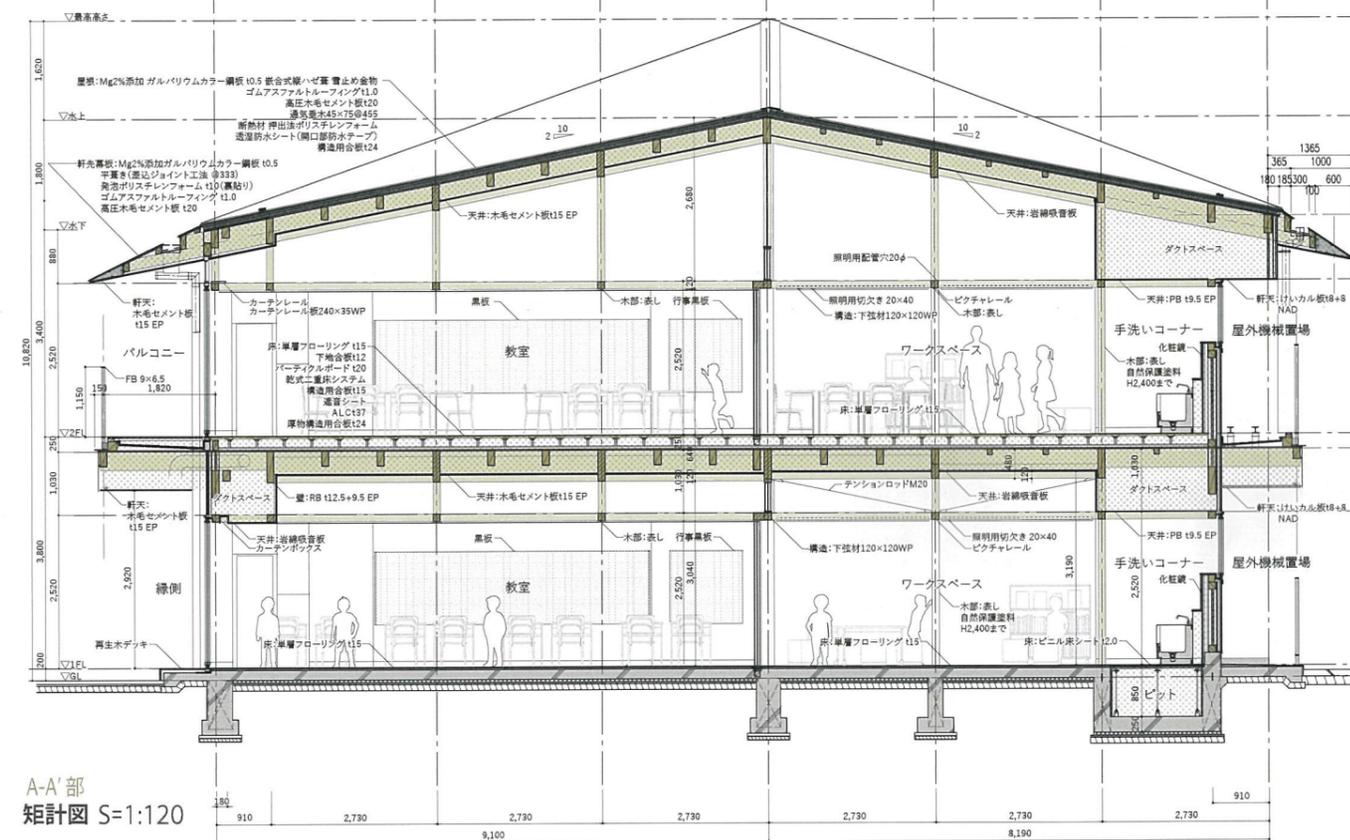
南側鳥瞰



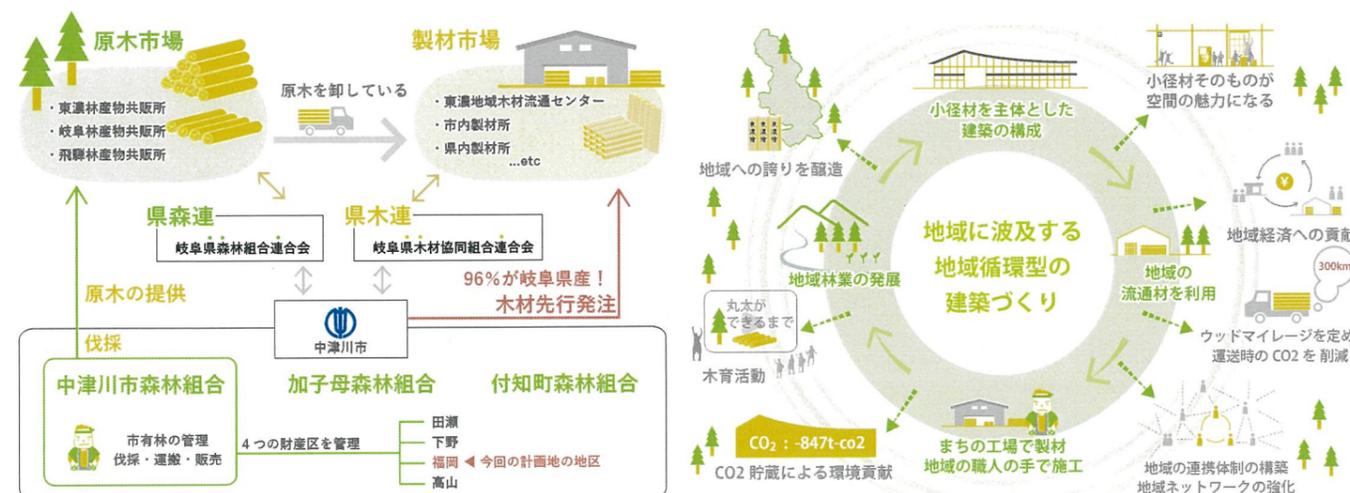
1階平面図 S=1:800



断面図 S=1:600



A-A'部 矩計図 S=1:120



様々な地域関係者との連携によって木材先行調達を実現

地域循環型の木造建築づくりが様々な波及効果が生む